

令和6年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（みつば幼稚園）

教育目標

夢中になって遊び
心豊かにたくましく
生きる力の基礎を培う

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月末	学校運営協議会
最終評価	3月上旬	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・本年度は『ありのままに』『つながって』『ひびきあう』をキーワードに『レジリエンス』の育ちに着目して保育の充実をめざす。
特に『からだ』『アート』『しぜん』の活動の中での育ちに焦点をあてる。
- ・週案や指導案作成時、担任だけでなく他の教職員の意見も取り入れることで、より『その時』にふさわしい活動ができるようにする。
- ・保育の中での、子どもの育ちや環境や援助の工夫をエピソードで表す。

（取組結果を検証する）各種指標

- 週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例の数。
- 保護者アンケート

- ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか
- ・各学年の発達に応じて、
 - ③歳児 園生活の中で『ありのまま』の姿を表していますか
 - ④歳児 友達への興味が高まってきていますか
 - ⑤歳児 友達の思いを感じたり、友達と一緒に活動したりしようとしていますか
- ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか
- ・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか
- ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか
- ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか
- ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか

中間評価

各種指標結果

○週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例の数。

月に2・3回のミニ園研・2か月に1~3回の園研を行っている。

各学年2事例以上のエピソードを作成し、研修を深めている。

毎週の週案作成時にも、テーマに沿った育ちの姿を挙げている。

○保護者アンケート（今回は98%の家庭から回答を得た）

- ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか
⇒100%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
- ・各学年の発達に応じて、
⇒具体的な育ちの姿を記入していただいた。その中で

3歳児・・・『安心感・自立』『友達への興味』

4歳児・・・『あそびの中の意欲』『友達の気持ちを感じる』『言葉によるコミュニケーション』

5歳児・・・『意欲・自信』『友達との共感』

などの育ちを多くの保護者が実感されていた。

- ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか
⇒99%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答（4・5歳児は100%）
- ・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか
⇒97%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答（5歳児は100%）
- ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか
⇒95%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
- ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか
⇒96%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
- ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか
⇒100%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ご回答いただいたすべての保護者の方が、子どもの成長を実感しておられる。『〇〇ができるようになった』と外面向的に表れる姿に加え、『友達との様々な関わり』や『多様な経験』を通して、一人一人の子どもが“自分らしく”心が豊かになっていいかれている姿も捉えられている。

	<p>○『身の回りのことが出来るようになる』『生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとする』などの項目につきましても、学年が上がるにつれ育ちの姿が見られる。</p>						
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○後期にも、さらに一人一人の子どもたちの『ちから』を伸ばしてけるように、また教師や友達との様々な関わりを通して、『レジリエンス』や『意慾』を高めていけるような環境や援助構成に努める。</p> <p>○特に生活習慣や社会生活に必要な『ルール』を身に付けていけるように、園でもさらにきめ細やかに一人一人の子どもの発達や『今』の姿に注目して、スマールステップ（＝小さな段階的目標）を大切にしてサポートする。</p>						
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取つたり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例の数。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか ・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか ・絵本やお話を興味を持つようになってきましたか 						
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の様子や行事などを参観する中でも、子どもたちが生き生きと活動し、教職員に対して安心感を持っていることがよくわかる。今後も引き続き、教職員間の連携や、研修での『高め合い』を大切にしていってほしい。 ・保育や行事などに、さらに積極的に理事も参加するようにする。 						
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <table border="1"> <tr> <td>自己評価</td><td>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</td></tr> <tr> <td>学校 関係 者 評 価</td><td>分析を踏まえた取組の改善</td></tr> <tr> <td>学校 関係 者 評 価</td><td>学校関係者による意見・支援策</td></tr> </table>	自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題	学校 関係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善	学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題						
学校 関係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善						
学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策						

（2）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『オープンキャンパス』の取組などを通して、幼児期の育ちを小中学校等にもわかりやすく発信す
--

る。

- ・昨年度と同様に、園児・児童の交流や連携の取組を進める。
- ・架け橋期（幼稚園）の指導計画の見直しを行い、小学校の『スタートカリキュラム』との連続性を高められるようにする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- オープンキャンパス（後期）やKKP（烏丸中・上京中ブロック内の幼・小・中合同の研修プロジェクト）の取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証
- 園児と児童の交流活動の取組の見直しとその中の育ち

中間評価

各種指標結果

- KKPの取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証

⇒教職員が積極的にKKPの研修に参加し、園だけではなく地域全体の子どもたちの姿や課題を共有し、保育に生かしている。
⇒幼稚園の教員が、児童等の交流の中での園児や児童の『10の姿の育ち』を見出し、小学校の教員と共有できるように努めた。

- 園児と児童の交流活動の取組の見直しとその中の育ち

⇒園児・児童にとってさらに『日常』の教育活動と結びついた活動内容となるように工夫したことで、双方が生き生きと活動でき、交流後の生活にもつながった。（運動会見学・園での交流など）

自己評価

分析（成果と課題）

- ・園の中だけで、KKPで地域ぐるみで、子どもの実態や課題を把握することができ、より的確に援助の在り方を検討することができた。
- ・園児と児童の交流を“その時だけ”に終わらすことなく、交流のなかでの互いの『育ち』を明らかにすくことができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・後期に行う『オープンスクール』への参加を、さらに広く呼びかけ、教職員の学びを深める。
- ・小学校との交流活動では、今後さらに児童と園児・そして教職員間での応答性のある交流を進める。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- オープンキャンパス（後期）やKKP（烏丸中・上京中ブロック内の幼・小・中合同の研修プロジェクト）の取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証
- 園児と児童の交流活動の取組の見直しとその中の育ち

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・『架け橋期』として大きく注目される前から、みつば幼稚園と小学校との交流は、活発であった。それらの交流の積重ねを大切にしていってほしい。
- ・運営協議会としても、今後とも『橋渡し』役を積極的に行うので、園としてどのような取組を希望するのかを、伝えてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 早朝登園時の様子、保育中の様子・健康状態や子ども同士の関係性など、預かり保育担当者とクラス担任、および家庭と連絡を密にする。 個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめる環境構成を行う。
(取組結果を検証する) 各種指標
<input type="radio"/> 週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。 <input type="radio"/> 保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか

中間評価

各種指標結果
<input type="radio"/> 週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。 ⇒早朝・通常保育終了後のどちらの預かり保育においても、参加する子どもの実態に応じて、日々の環境や活動などを、フレキシブルに再構成し、週案立案に生かしている。また日々の様子を担任や管理職と共有し、預かり保育だけでなく、通常保育での援助の在り方や活動内容にも生かしている。
○保護者アンケート
<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか ⇒ (利用している保護者の中の) 97%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育での子どもの姿を、担任やその他教職員と共有することで、多面的に一人一人の子どもの内面をとらえることができ、通常保育でも、より的確な援助ができる、子どもの『安定感』や『自信』につながる姿がみられる。 預かり保育での異年齢の関わりは通常保育にもつながり、園全体で学年を超えた『育ち合い』がみられる。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> さらに保護者の方々に『安心感』をもっていただけるように、預かり保育での過ごし方・遊びの様子などを知らせる機会を作る。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<input type="radio"/> 週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。 <input type="radio"/> 保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか

学校 関係者 評価	<ul style="list-style-type: none"> 年々、利用者が増えているという実態をもとに、運営協議会としても、預かり保育の充実のために、直接的な援助を続けていく。(運動会・しおり作りなど)
-----------------	---

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果			
自己 評 価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> </table>	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題	分析を踏まえた取組の改善
分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題			
分析を踏まえた取組の改善			
学校 関係者 評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">学校関係者による意見・支援策</td> </tr> </table>	学校関係者による意見・支援策	
学校関係者による意見・支援策			

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> 個人懇談会やクラス懇談会、登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う 就労などで園行事（始業式、終業式・参観・懇談・研修など）や誕生会後の『ほっこり子育て広場』などに参加することが難しい保護者へのフォローを丁寧に行う（動画での配信など） 未就園児親子が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場や、子育ての喜びや不安を話せる場となる教育相談の内容の充実を行う。 『満3歳児クラス』の充実に向けて、教育課程の見直しや在園児との『育ち合い』を大切にする。 ホームページ・インスタグラム掲載や地域・小規模保育事業所へのチラシ配布など教育相談を広く発信する。 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<input type="checkbox"/> 日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・インスタグラムでの教育活動の発信 <input type="checkbox"/> 保護者との『話し合い』や情報発信の内容の検証 <input type="checkbox"/> 保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> 教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか 幼稚園生活の様子はわかりやすいですか (おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど)	

中間評価

各種指標結果	
<input type="checkbox"/> 日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・インスタグラムでの教育活動の発信	

⇒アプリなども活用し、より『読みやすい』内容で伝える努力はしてきた。

ホームページ・インスタグラムなどのアップ数は不十分である。

○保護者との『話し合い』や情報発信の内容の検証

⇒保育の充実には、保護者の方々との『思い』のやり取りや、同じ方向を向いて子どもたちを援助していくこと大切さが欠かせないことを、園全体で共有し取り組んできた。さらに預かり保育利用者への配慮を深めていきたい。

○保護者アンケート

- 教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか

⇒97%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

- 幼稚園生活の様子はわかりやすいですか（おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど）

⇒94%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- 多くの保護者が、教職員に家での様子について気軽に相談したり、園の様子を聞いたりされている実態がある。
- SNSへの発信は個人情報の流出防止や映像の取扱などに十分に配慮したうえで、必要な時に使用していく。

分析を踏まえた取組の改善

- 保護者との、日常的なクラス全体や個別での話合いを最も大切にして、園の様子や一人一人の子どもの育ちなどを伝えていく。
- 引き続き、登降園時により多くの保護者の方々とのコミュニケーションができるようとする。
- 保護者の方が、園に対して相談したい・喜びや不安を共有したいと思われたときには、担任だけでなく、管理職も含めてさらに誠意をもって対応できるようにする。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・インスタグラムでの教育活動の発信

○保護者との『話し合い』や情報発信の内容の検証

○保護者アンケート

- 教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか

- 幼稚園生活の様子はわかりやすいですか

（おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど）

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 保護者の方にとって『安心感』をもつこと、『成長の喜び』を感じることはもっとも大切な『子育て支援である。教職員との直接的な『やりとり』をまずは大切にしてほしい。さらに補助的にSNSなどの活用も積極的に進めて行ってほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組

- ・中学校との連携や交流を行ったり、PTA活動や学校運営協議会と連携した地域行事を保護者に案内し参加を呼び掛けたりする。
- ・隣接する高齢者施設との交流が本格的に再開されること受け、地域の高齢の方々との親しみを深める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り
- 高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り
- 保護者アンケート
 - ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。

中間評価

各種指標結果

- 上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り
 - ⇒上京中生との交流では、教職員同士が以前よりも、深く話合い、互いの意欲や自信につながる交流の工夫をすることが出来た。
- 高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り
 - ⇒コロナ後、園児が施設内に入って、活動することが可能となった。
- 保護者アンケート
 - ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。
 - ⇒75%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
 - 16%…わからない

自己評価

分析（成果と課題）

- ・中学校との交流では、時間的な制約はあるが、今後とも、生徒・園児そして教職員にとって、心を動かすことが出来、中学生にとって『自信』につながるものとなるよう、交流前に積極的に活動内容の工夫を園からも提案していく。
- ・高齢者施設との直接的な交流の再開は、園児だけでなく保護者の方にとっても、とても『楽しみ』にされていた。また子どもたち（前期は5歳児）も初めての状況に適応し安定感をもって行動したり、自信をもって過ごしたりすることができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・後期も施設側が（感染状況などを鑑みて）可能であれば1月に1回計画していく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々が、保育の充実に貢献していただいていること、そして地域の方々との交流や行事参加の中での子どもたちの育ちを、わかりやすく、保護者の方々へ伝える努力を続ける。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り ○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り ○保護者アンケート ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・小川学区住民だけでなく、みつば幼稚園の子どもたちに対しては、広く地域行事への参加の門戸が開かれている。そのような取組の中で子どもたちも保護者も『地域の中で育つ』ことが実感できるに、園からもさらに積極的に働きかけていってほしい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	<table border="1"> <tr> <td>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</td> </tr> </table>	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題		
学校関係者評価	<table border="1"> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> </table>	分析を踏まえた取組の改善
分析を踏まえた取組の改善		
学校関係者による意見・支援策	<table border="1"> <tr> <td>学校関係者による意見・支援策</td> </tr> </table>	学校関係者による意見・支援策
学校関係者による意見・支援策		

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標
前年と比べ、すべての教職員の超過勤務時間を削減し年休等の取得率を上げる。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教職員が『働き方改革』+『働きがい改革』の意義を理解し、常に意識して業務を行う。 ○業務の中で、時間をかけて行うものと効率化を図るものメリハリをつける。 ○『勤務時間削減』と『保育や研修の充実』に向けた具体的に工夫した点を明らかにする。 ・保護者の方々や地域の方々にも『働き方改革』の意義をお知らせし、ご理解いただく。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率

中間評価

各種指標結果

- ・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率

⇒教職員全体の勤務時間数は減少している。

年休・特休などの取得率は増加している。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・時期により、勤務時間の超過傾向がみられることがある。

保育の充実のためにやむを得ない時期もあることを考慮し、日常の保育の業務の取り組み方の工夫をさらに重ねる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・週単位や月単位でさらに見通しをもって、保育の準備や提出物作成などを計画的に行う。

- ・業務の分担を行い、それぞれの教職員がさらに助け合って業務が行えるようにする。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・保育の充実のための『働き方改革』であるので、地域行事への教職員の参加の仕方なども積極的に見直しを進めて行ってほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策